

社会資本工学コース

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	構造物と技術の発展 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	必修	必修
教員	津岡 眞 教授 山田 健太郎 教授 勸使川原正臣 教授	

●本講座の目的およびねらい

土木・建築の歴史的發展を治山・治水・耐震・耐火などの防災論的視点、また水供給、エネルギー供給、交通利便の供給、住宅の供給、アメニティの供給など社会資本整備の観点の両方から概説し、その中で個々の代表的技術および構造物の歴史的發展を紹介する。そして土木・建築の過去から未来へとつながる技術の継承を認識させる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

- ・ガイダンス・構造物の力学理論の発展史・鋼構造物の技術史・橋梁技術と用いられる材料の変遷・長大橋梁に至る最近の技術開発・設計と意思決定・地盤沈下・鉄筋コンクリート造建築物の超層・超高層化技術の開発・高知能建築構造システムの開発・高潮と津波・防波と海岸保全・構造物の地盤技術と耐震工学・東海・東南海地震・兵庫県南部地震・まとめ

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

出席及びレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	都市と文明の歴史 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	必修	必修
教員	林 良嗣 教授 森川 高行 教授 恒川 和久 講師	

●本講座の目的およびねらい

古代から現代までの人類の都市文明の歴史を、自然条件や社会背景および技術発展やデザインの傾向と関連させつつ概説し、都市について考えるための基礎的知識の習得を図る。

都市・建築にかかわる歴史的課題を、自然・モノ・人の視点を通して理解し、都市・建築設計する行為が社会や自然に及ぼす将来の影響を予測・評価し、その当否を判断する能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

1. 近代都市の発展サイクルとその背景にある途上国の基礎的課題を近代技術の歴史を通して認識する。
2. 都市計画史上の典型的な課題である交通技術の発展との関係を理解する。
3. 西洋及び日本の歴史的都市の形態およびその形態を成立させてきた要因を、その背景にある自然条件や社会的条件、歴史的人物の考え方などに着目して理解する。

1) 西洋都市史：古代ギリシア・ローマ、中世ヨーロッパ都市、ルネッサンス・バロック、近代都市論
2) 日本都市史：古代の都城、中世都市の形成、城下町、近代の都市計画、現代の都市空間

●教科書

都市史図録編集委員会編『都市史図録』彰国社
図録概要および図版を掲載したプリントを配布する

●参考書

図録日本都市史
図録都市の世界史1～4

●成績評価の方法

- ・各教員が課すレポート及び学期末の試験の成績により評価を行う。
- ・レポート及び試験による成績は、各担当教員の担当授業回数に比例した配点で作成され、評価はその合計点で行う。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	図学 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	選択	必修
教員	西澤 泰彦 准教授	

●本講座の目的およびねらい

3次元空間にある図形(点、線、面および立体)を2次元の平面上に表現(作図)すること、逆に表現された図から3次元図形を計量的・幾何学的に解析する種々の問題を扱うことにより、空間的図形情報の把握・表現能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 正投影法
2. 多面体と断面
3. 曲線と曲面
4. 立体の相互関係
5. 軸測投影

●教科書

小高可郎『現代図学』森北出版

●参考書

高橋研究室編『かたちのデータファイル』彰国社

●成績評価の方法

試験(2回)及び演習レポートの点数を8:2の割合で合計した点数によって成績判定する

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	形と力 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年後期	1年後期
選択/必修	必修	必修
教員	伊藤 義人 教授 大森 博司 教授	

●本講座の目的およびねらい

力や荷重、モーメントなどの基礎的概念を十分に理解した上で、建築系構造物を構成する各部材に発生する様々な力の作用状況を構造形態に応じて導出するための理論を学習し、これらに応用する手法を身につける。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

1. 構造物の力学モデルの基本的な考え方を講義し、力、荷重、モーメント、自由体、断面力の概念を講義する。
2. 自由体の作り方、支店反力の求め方、断面力の種類と符号について講義する。
3. 軸力部材、はり、トラス、ラーメン、アーチ、ねじり部材の断面力を計算し、断面力図を描く手法を講義する。また、外力と断面力の関係の微分方程式を求める。
4. 安定・不安定、静定・不静定の考え方を説明し、実際の構造物の不静定次数を計算できるようにする。
5. 実構造物の力と形の関係について、トラスを例にして講義する。

●教科書

ハンドアウトを配布する。

●参考書

授業の最初にリストを提示する。

●成績評価の方法

中間試験(40%)、期末試験(40%)、レポート(20%)の結果により総合評価し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	人間活動と環境 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年後期	1年後期
選択/必修	必修	必修
教員	辻本 哲郎 教授 久野 寛 教授	

●本講座の目的およびねらい

人間の生活、生産、交通等の活動によりもたらされる環境負荷及び、それらの活動に必要な空間とインフラストラクチャの質を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 経済発展・都市化とエネルギー消費・環境負荷
2. 日本と諸外国の交通システムと環境政策
3. 環境問題・環境保全のための経済学
4. 地球環境問題
5. 近代住宅・都市基盤施設の機能と意匠
6. 地球と建築・建築と人間
7. 光、音と人間
8. 河川と流域、河川環境認識の変遷、環境影響評価法、環境管理の方法
9. 生態系保全の考え方
10. 河川に沿う人間活動の環境の課題(砂防域、ダム周辺、中流域、下流域)

●教科書

●参考書

「環境工学教科書」環境工学教科書研究会、彰国社、2000

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	確率と統計 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年後期	1年後期
選択/必修	選択	選択
教員	森 保宏 教授	

●本講座の目的およびねらい

確率・統計論の基本的理論や一般的な確率分布/確率モデルの特徴、調査や実験・観測などから得られるデータから母集団の特徴を抽出する解析方法。さらに、種々の不確定要因を伴う土木・建築システムの設計・計画における意思決定への適用方法について講義する。

達成目標

1. 確率・統計の基本定理を習得
2. 一般的な確率分布関数の特徴および統計量や確率分布関数の評価方法の習得
3. 母集団の統計量や確率分布を推定/検定する方法の習得

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

0. なぜ、確率・統計を学ぶのか、統計と論理
1. 順列・組み合わせ
2. 確率の基本定理
3. 確率変数、確率分布
4. モーメント
5. ランダム事象の確率モデル
6. 回帰分析
7. 母集団の統計量の推定
8. 統計的検定
9. 確率分布の推定
10. 統計論的意思決定

●教科書

理工系の確率・統計入門：服部（学術図書出版）

●参考書

事例に学ぶ建築リスク入門：日本建築学会編（技報堂）

●成績評価の方法

中間試験(30%)、期末試験(40%)、およびレポート(30%)で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。
履修上の注意：毎回電卓持参のこと
質問への対応：講義中の質問を歓迎する。電子メールでの質問およびアポイントメントを受け付ける

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習	数学I及び演習 (3単位)
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年後期	1年後期
選択/必修	必修	必修
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授	

●本講座の目的およびねらい

工学の専門科目の基礎となる数学を理解させる。微分方程式及びベクトル解析の知識を系統的に示し、理論と応用との結びつきを習得させる。この授業を通して下記を達成する

1階微分方程式の初等解法を理解し、説明できる。
2階線形微分方程式の解法を理解し、説明できる。
連立微分方程式と高階線形微分方程式の関係と解法を理解し、説明できる。
ベクトル演算と微分・積分を理解し、説明できる。
ベクトルと空間図形の関係を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

微分積分学I、微分積分学II、線形代数I、線形代数II

●授業内容

常微分方程式

- ・微分方程式の初等解法
- ・定数係数、変数係数の2階線形微分方程式
- ・高階線形微分方程式

ベクトル解析

- ・ベクトルの基本的な性質、微分
- ・平面曲線、空間曲線
- ・曲面の表現、距離・面積・法線
- ・ベクトルの場の微分定理

●教科書

矢野信男：常微分方程式、理工系の数学入門コース-4、岩波書店
戸田盛和：ベクトル解析、理工系の数学入門コース-3、岩波書店

●参考書

●成績評価の方法

期末試験の結果により総合判断し、55点以上を合格。
注意事項：授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。
質問への対応：入室、メールによる質問で対応。
連絡先：水谷（内線4630、misutan@eciv11.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632、kawasaki@eciv11.nagoya-u.ac.jp）

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	情報処理序説 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	必修	必修
教員	山本 俊行 准教授	

●本講座の目的およびねらい

情報メディア教育センターのシステムを使って、ファイル操作、情報の検索・発信法、電子メールの利用法、およびプログラミングについて学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. コンピュータ倫理
2. ファイル操作
3. 電子メールの利用
4. 電子化情報の検索
5. ウェブページの作成
6. プログラミング

●教科書

・情報メディア教育システムハンドブック：名古屋大学情報メディア教育センター ハンドブック編集委員会編、昭晃堂
・原田賢一著「Fortran77プログラミング」(サイエンス社)

●参考書

●成績評価の方法

講義時間中に実際に作業を課すため授業参加(50%)および課題レポート(50%)によって総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義
	構造解析の基礎 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年前期 必修
教員	館石 和雄 教授

●本講座の目的およびねらい

構造解析を行うための基礎的な力学量を理解するとともに、それを用いた弾性構造解析の基礎を学ぶ

●バックグラウンドとなる科目

形と力

●授業内容

1. 応力
2. 主応力と主軸
3. 変形とひずみ
4. 構成則
5. 固体の弾性

●教科書

適宜プリントを配布する。

●参考書

●成績評価の方法

中間試験 (30%)、期末試験 (70%) の結果により判断し、55%以上を合格とする

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習
	構造力学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年後期 必修
教員	伊藤 義人 教授 石川 敏之 助教

●本講座の目的およびねらい

構造物設計の基本を理解するとともに、荷重によって部材内部に発生する応力と部材の変形を求める方法およびエネルギー原理の基礎を学ぶ。達成目標

1. 各種部材の変位で表されるつり合い微分方程式を理解し、誘導ができる。
2. 微分方程式を解く方法、変位適合条件、弾性荷重法などの方法を理解し、変位の計算ができる。
3. 部材の応力 (歪直応力とせん断応力) を理解し、計算ができる。
4. エネルギー保存則、仮想仕事の原理を理解し、それらの応用ができる。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、構造解析の基礎

●授業内容

1. 軸力部材の応力と変位
2. 曲げ部材の応力と変位
3. ねじり部材の応力と変位
4. エネルギー原理

●教科書

なし、ただし、授業中にプリントを配布する。

●参考書

適時紹介する

●成績評価の方法

試験 中間試験 (30%)、期末試験 (70%) の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義
	土質力学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年前期 必修
教員	浅岡 國 教授 中野 正樹 教授 野田 利弘 教授

●本講座の目的およびねらい

土粒子と水からなる飽和土の力学的性質を理解するために、二相系混合材料の捉え方を講述する。特に、土粒子が構成する土骨格の変形を伴わない間隙水の移動 (浸透) と、有効応力概念に基づく土骨格の変形を伴う間隙水の移動 (圧密理論) の違いを明確にししながら、土質力学の知識を養う。また、力学の基本的事項である、力のつり合いと、応力とひずみなどについても復習する。

●バックグラウンドとなる科目

力学1・2、線形代数1・2、微分積分学2

●授業内容

1. 土質力学の概要
2. 土とその構造
3. 土の締め固め
4. 透水 (連続式・ダルシー則)
5. 応力・間隙水圧・有効応力・透水力
6. 圧縮特性
7. 一次元圧密理論

●教科書

プリント配布

●参考書

石原研吉著「土質力学」(丸善)

●成績評価の方法

レポート (20%)、中間試験 (30%)、期末試験 (50%) の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。なお無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義
	流れの力学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年前期 必修
教員	辻本 哲郎 教授 水谷 法英 教授

●本講座の目的およびねらい

流体力学の基礎と古典的な基礎物理学の体系を学び、これらを主として管路の流れに適用する能力をつける

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 流れの力学
水の性質
静止流体の力学
完全力学の基礎と相対静止
2. 基礎水理学
ベルヌーイの定理
エネルギー損失
運動量保存則
渦流と乱流の概念
抵抗の概念

●教科書

水理学1：橋本一郎著 (森北出版)

●参考書

●成績評価の方法

筆記試験 (2回実施、100%)

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	空間計画論 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	2年後期	2年後期
選択/必修	必修	必修
教員	林 良嗣 教授 加藤 博和 准教授	

●本講座の目的およびねらい

国土および都市の発展段階を意識した空間計画の理論について理解するとともに、欧米および日本における実際の空間計画制度について学習し、それらを相互比較することによって、21世紀の日本およびに求められる空間計画のあり方について探求する。

●バックグラウンドとなる科目

社会資本計画学、人間活動と環境

●授業内容

1. 概説
2. 国・都市の成長・衰退・再生のメカニズムと空間計画
3. 各国の空間計画制度
4. 土地収用・土地借借・土地市場制度の国際比較
5. 発展途上国における空間計画制度の現状と課題
6. 少子高齢化・人口減少と空間計画との関係
7. 空間計画が環境問題に及ぼす影響
8. 日本における空間計画制度の全体構成とプロセス
9. 日本における都市計画の問題点と改善策
10. 持続可能な都市経営のための空間計画
11. 国土・都市計画技術者に求められる倫理

●教科書

特になし

●参考書

国土調査：中村英夫編（技報堂）
日本人と土地：中村英夫、辻村明編（ぎょうせい）

●成績評価の方法

期末試験70%、レポート30%

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習	
	数学2及び演習 (3単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	2年後期	2年後期
選択/必修	選択	選択
教員	武田 一哉 教授 水津 光司 助教	

●本講座の目的およびねらい

数学1及び演習に引き続き、専門科目を学ぶ基礎として、工学上重要な方法であるフーリエ解析、さらに工学によく用いられる偏微分方程式について講義する。数学的思考方及び具体的問題に現れる理論と応用との結びつきを重視する。

●バックグラウンドとなる科目

数学基礎1、II、III、IV、V、数学1及び演習

●授業内容

1. 常微分方程式
2. 偏微分方程式
3. ラプラス変換
4. フーリエ変換

●教科書

技術者のための高等数学3 フーリエ解析と偏微分方程式 E.クライツィグ著 培風館

●参考書

技術者のための高等数学3 常微分方程式 E.クライツィグ著 培風館

●成績評価の方法

試験及び演習レポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	コンクリート構造第1 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	
開講時期	2年後期	
選択/必修	必修	
教員	中村 光 教授	

●本講座の目的およびねらい

コンクリート構造の基本的な力学性能である、曲げモーメントならびに軸力を受けるRCはり部材の終局に至る非線形変位の挙動ならびに、設計の基本となる曲げ応力度、曲げ耐力、軸筋荷力の算定方法について。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、構造解析の基礎、材料工学、構造力学

●授業内容

1. コンクリート構造概論
2. コンクリートと鉄筋の材料モデル
3. RCはりの単純弾性曲げ理論
4. RCはりの終局強度と曲率
5. RC性の挙動と終局強度
6. 曲げと軸力の相互作用

●教科書

コンクリート構造：田辺他著（朝倉書店）

●参考書

鉄筋コンクリート工学（オーム社、町田彦彦他著）
コンクリート構造の基礎（数理工学社、二羽淳一郎）

●成績評価の方法

中間試験(40%)、期末試験(60%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 演習	
	構造力学演習 (1単位)	
対象履修コース	社会資本工学	
開講時期	2年後期	
選択/必修	必修選択	
教員	伊藤 義人 教授 石川 敏之 助教	

●本講座の目的およびねらい

構造力学の演習

●バックグラウンドとなる科目

構造力学

●授業内容

構造力学に対する演習

●教科書

なし。ただし、授業中にプリントを配布する。

●参考書

適時紹介する。

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 演習 土質力学演習 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年前期 必修選択
教員	中野 正樹 教授 山田 英明 助教 中井 健太郎 助教

●本講座の目的およびねらい

土質力学の基礎的事項についての理解を深めるとともに、浸透解析、一次元圧密理論などの古典理論の考え方および解法を習得し、設計の基礎的理解を助けることを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、土質・基礎工学、地盤材料実験

●授業内容

1. 土の種類とその応用
2. 透水解析
3. 全応力・有効応力、閉じき水圧と透水力
4. 一次元圧密理論
5. 土のせん断挙動

●教科書

プリントを配布する。

●参考書

なし

●成績評価の方法

筆記試験あるいはレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 演習 水理学演習 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年前期 必修選択
教員	川崎 浩司 准教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 喬 助教

●本講座の目的およびねらい

流れの力学で学習した水理学の基本事項に関する具体的な問題について演習をおこなう。

- ・静水力学の原理を用いて、各種水圧やその合力・作用点を求める事ができる。
- ・浮体の安定の可否を判定できる。
- ・相対静止微分方程式から、任意の点の圧力が計算できる。
- ・ベルヌイの定理（損失も含む）を用いて、管路での各種エネルギー線を描いたり、流量や任意の点での圧力を求めたりすることができる。
- ・運動量保存式をたて、流管の境界に働く力を評価できる。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学

●授業内容

1. 静水力学（静水圧、圧力分布と浮力、合力と作用点）
2. 完全流体と相対静止
3. ベルヌイの定理（管路定常流・非損失系）
4. 非定常のベルヌイの定理（U字管振動）
5. 損失のあるベルヌイの定理（管路流の解法、損失係数、エネルギー線）
6. 運動量保存則

●教科書

●参考書

水理学1：橋本一郎（森北出版）

●成績評価の方法

レポート(40%)および筆記試験(2回、60%) 注意事項：授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。 質問への対応：来室、メールによる質問で対応。
連絡先：川崎（内線4632, kawasaki@civil1.nagoya-u.ac.jp）、戸田（内線5176, ytda@cc.nagoya-u.ac.jp）

科目区分 授業形態	専門基礎科目 演習 社会資本・空間計画法演習 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 必修選択
教員	森川 高行 教授 中村 英樹 教授 加藤 博和 准教授

●本講座の目的およびねらい

社会資本・空間計画法の基礎的事項についての理解を深めるとともに、回帰分析、線形計画法、費用便益分析、産業連関分析などの解法を習得する。さらに、分析結果を報告するプレゼンテーション能力を習得する。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、社会資本計画法、空間計画法、交通論

●授業内容

1. オリエンテーション-土木計画に必要な分析ツール
2. 検定法に関する講義と演習
3. 回帰分析に関する講義と演習
4. 線形計画法に関する講義と演習
5. 費用便益分析に関する講義と演習
6. 自由課題に関するグループワーク（データ収集と分析、プレゼンテーション準備）
7. 英語による報告会

●教科書

●参考書

未定

●成績評価の方法

レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習 解析力学及び演習 (2.5単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年前期 選択	建築学 2年前期 選択
教員	野田 利弘 教授	

●本講座の目的およびねらい

(1年次までに学んだ)ニュートン力学を復習・意識しながら、仮想仕事の原理、より普遍的な力学原理であるラグランジュの運動方程式とハミルトンの原理等を学習することにより、解析力学による多様な運動の統一的理解とより深い力学的考察ができる基礎力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

数学1及び演習、力学1・2、微分積分学1・2、線形代数学1・2

●授業内容

1. ニュートン力学の基礎的事項の復習
2. 仮想仕事の原理
3. ラグランジュの運動方程式
4. 微小振動問題・連成運動・基準振動
5. ハミルトンの原理、位相空間、正準変換

●教科書

田辺行人・品田正樹：理・工基礎 解析力学（裳華房）

●参考書

参考書：宮下精二 解析力学（裳華房）、田村武 構造力学（朝倉書店）

●成績評価の方法

レポート(20%)、初関・中間試験(30%)、期末試験(50%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 専門科目
授業形態 講義
材料工学 (2単位)
対象履修コース 社会資本工学
開講時期 2年前期
選択/必修 必修
教員 園枝 隆 准教授

●本講座の目的およびねらい

コンクリート材料に主眼を置き、コンクリートの各種性質と構成材料(水、セメント、骨材など)との関係についての理解を促す。コンクリート中の空隙組織と強度、変形との関係、空隙組織と時間依存性変形の生じる因果関係の理解を促す。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

1. 技術者倫理、材料工学講義の概説(土木構造物と材料)
2. 岩石材料(岩石の成因と骨材への適用性、骨材材料の物理的、化学的な性質)
3. セメント、混和材(剤)(製造、水和、硬化と生成物)
4. 鋼材の性質
5. フレッシュコンクリートの性質(配合設計、ワーカビリティ、コンシステンシー、材料の分類)
6. 硬化したコンクリートの性質(強度、微細構造)
7. コンクリート構造の劣化と耐久性(アルカリ骨材反応、乾燥収縮、クリープ、塩害、中性化)
8. 新材料(ポリマー、FRP、繊維材料)

●教科書

土木材料学(国民科学社、岡田、明石、小塚編)

●参考書

特になし

●成績評価の方法

中間試験(40%)、期末試験(60%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

科目区分 専門科目
授業形態 講義
応用構造力学 (2単位)
対象履修コース 社会資本工学
開講時期 3年前期
選択/必修 必修
教員 伊藤 義人 教授
北根 安雄 助教

●本講座の目的およびねらい

エネルギー原理、応力法および変位法を理解すると共に、静定・不静定構造物の解法を習得することを目標とする。

達成目標

1. 弾性体に対する仮想仕事の原理を理解し、静定・不静定構造物の解法による構造物の変位などの計算ができる。
2. 応力法の概念を理解し、不静定構造物の解法による構造物の変位などの計算ができる。
3. 変位法の概念を理解し、不静定構造物の解法による構造物の変位などの計算ができる。

●バックグラウンドとなる科目

構造力学

●授業内容

1. エネルギー原理
2. 応力法
3. 変位法

●教科書

なし。ただし、授業中にプリントを配布する。

●参考書

適時に紹介する。

●成績評価の方法

試験

中間試験(30%)、期末試験(70%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 専門科目
授業形態 講義
土質・基礎工学 (2単位)
対象履修コース 社会資本工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修
教員 浅岡 頌 教授

●本講座の目的およびねらい

土骨格の弾塑性応答の基礎的事項を述べ、土骨格~間隙水の連成効果を説明する。
1. 土の圧縮、せん断特性を学び、排水・非排水条件下での典型的な繰り返し粘土の弾塑性挙動を把握する。
2. 地盤の变形予測・破壊予測法の考え方および原理について理解する。
3. 地盤の安定問題の基礎を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学

●授業内容

1. 技術者倫理からみた土質・基礎工学の役割
2. 典型的な粘土の力学挙動を、3軸圧縮試験を用いた試験結果により説明する。特に、粘土の等方圧縮特性、1次元圧縮との比較、砂の圧縮特性を説明する。
3. 土のせん断挙動を、正規圧縮粘土と過圧密粘土、さらにせん断時の排水条件として、非排水せん断と排水せん断とにおいて説明する。
4. 土のせん断挙動、とくに限界状態について述べ、土のせん断強度を理解する。また粘土地盤の非排水支持力、円盤すべり解析、土圧理論について概略を説明する。

●教科書

特になし、プリントを配布する

●参考書

石原研而著 「土質力学」丸善

●成績評価の方法

試験成績(70%)とレポート提出(30%)により55%以上を合格とする。

科目区分 専門科目
授業形態 講義
開水路水理学 (2単位)
対象履修コース 社会資本工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修
教員 辻本 哲郎 教授
戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい

開水路水理学の基礎となる自由水面を持つ流れについて、とくに1次元的水理学体系を学ぶとともに、流速分布、流砂などの基礎とともに鉛直2次元への導入について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学

●授業内容

1. 流れの状態
2. 開水路流れの基礎式
3. 比エネルギー・比力
4. 抵抗則
5. 等流・限界流
6. 水面形
7. 開水路2次元等流の流速分布
8. 開水路非定常流の基礎(微小擾乱、洪水伝播)
9. 移動床水理の基礎

●教科書

プリントを配布する。 水理学1: 橋本一郎著(森北出版)

●参考書

水理学2: 橋本一郎著(森北出版)

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	社会資本計画学 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年前期 必修	建築学 3年前期 選択
教員	森川 高行 教授 奥田 隆明 准教授	

●本講座の目的およびねらい

道路・鉄道・空港・上下水道・公園などの社会資本施設の経済学的特徴、その計画策定の手順、及び需要予測・評価の分析方法について論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、都市・国土計画

●授業内容

1. 社会資本とその特徴
2. 社会資本計画の目標と策定過程
3. 計画の必要性の検討・需要予測
4. 社会基盤整備の効果
5. 社会資本の経済分析
6. 社会資本計画の評価法
7. 数理計画法
8. 社会資本計画者としての倫理

●教科書

土木計画学：河上省吾編著（鹿島出版会）

●参考書

●成績評価の方法

試験および演習レポート

科目区分 授業形態	専門科目 演習	
	応用構造力学演習 (1単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年前期 選択	
教員	伊藤 義人 教授 北根 安雄 助教	

●本講座の目的およびねらい

応用構造力学の演習

●バックグラウンドとなる科目

応用構造力学

●授業内容

応用構造力学に対する演習

●教科書

なし。ただし、授業中にプリントを配布する。

●参考書

適時紹介する

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	コンクリート構造第2 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年前期 選択	
教員	中村 光 教授	

●本講座の目的およびねらい

コンクリート構造第一に引き続く内容で、更に進んで部材のせん断破壊、ねじり破壊の現象と耐荷力算定方法、ならびに使用時の耐久性の観点で必要となる付着やひび割れの機構について講義する。更にプレストレストコンクリート構造の原理と設計方法を講義する。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、構造解析の基礎、材料工学、構造力学、コンクリート構造第1、材料学実験

●授業内容

1. せん断力を受けるRC部材の強度と変形
2. ねじり力を受けるRC部材の強度と変形
3. ひび割れとコンクリートと鉄筋の複合作用
4. プレストレストコンクリート

●教科書

コンクリート構造：田辺勉著（朝倉書店）

●参考書

鉄筋コンクリート工学（オーム社、町田彦彦他）
コンクリート構造の基礎（数理工学社、二羽淳一郎）

●成績評価の方法

中間試験(40%)、期末試験(60%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、期末試験の受験を認めない。

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	社会基盤デザイン学 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4年前期 選択	
教員	中村 光 教授	

●本講座の目的およびねらい

土木構造物の設計に当たって、何故その地点にその形式の構造物が造られねばならないか。例えば、どういうプロセスを経て、橋梁架設の地点が決まるのか、また橋梁形式が決まるのかを、第一級のエンジニアから聞くことで、単なる知識だけでなく経験を学ぶ

●バックグラウンドとなる科目

材料工学、コンクリート構造第1、コンクリート構造第2、コンクリート構造演習

●授業内容

1. 道路路幅選定とそのメカニズム
2. 原子力発電施設の地点決定と施設設計
3. 構造物のデザインの決定とその効用
4. 現場見学会

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分
授業形態
専門科目
講義及び演習
地盤工学 (2単位)
対象履修コース
社会資本工学
開講時期
3年後期
選択/必修
選択
教員
中野 正樹 教授

●本講座の目的およびねらい

地盤および土構造物の強度特性の把握、安定問題についての知識を養い、設計へ応用する力を養うことを目的とする。その中でも、地盤や土構造物の実際の挙動を、設計において、工学的判断のもと、どのように理想化、単純化するか判断できる力を養うことも目的とする。また必要に応じて古土質力学と現代土質力学との比較も行い、実際の土の理想化についての知識を養う。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、土質・基礎力学、土質力学演習、地盤材料実験

●授業内容

1. 典型的な土のせん断挙動
2. 破壊基準
3. 安定解析法(土圧、支持力、斜面安定)
4. 室内試験による土の力学的性質と設計への適用
5. 規範的設計・施工法

●教科書

プリントを配布する

●参考書

土質力学(山口祐樹著)

●成績評価の方法

試験及び演習レポート

科目区分
授業形態
専門科目
講義
流域水文学 (2単位)
対象履修コース
社会資本工学
開講時期
3年前期
選択/必修
選択
教員
辻本 哲郎 教授
戸田 祐嗣 准教授

●本講座の目的およびねらい

- ・雨水流出過程や流域水循環の概要を説明できる。
- ・水文学の統計について、指定した再現期間に対応した降雨量を、確率紙を用いて求められる。
- ・与えられたDA特性に基づき、時間・空間平均した降雨量を求められる。
- ・流域での土砂生産を支配するものや、その過程の概要を説明できる。
- ・河川の土砂輸送の成分を説明できる。・流砂量の基礎的な式を説明できる。
- ・流域管理、生態系保全の観点で河川・流域の水循環や土砂動態との関わりを説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学、水理学

●授業内容

1. 流域システム
2. 流域での土砂生産と土砂流送
3. 河川・流域生態系
4. 水文流出過程(降雨、浸透、蒸発散)
5. 水文統計
6. 流出モデル(流出モデル)
7. 流域管理と技術者倫理

●教科書

講義に沿ってプリントを配布。

●参考書

河川砂防技術基準(案)(1997、)、水圏水文学(水村和正、山海堂)、河川工学(西畑勇夫、技報堂)

●成績評価の方法

レポート(30%)と筆記試験(70%)

科目区分
授業形態
専門科目
講義
交通論 (2単位)
対象履修コース
社会資本工学
開講時期
3年前期
選択/必修
選択
教員
中村 英樹 教授
山本 俊行 准教授

●本講座の目的およびねらい

交通が国土・地域・都市の形成に果たしてきた役割について論じ、交通の需要や自動車の流れなどの交通現象の分析法について講義する。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、人間活動と環境、確率と統計、社会資本計画学、空間計画論

●授業内容

1. 交通計画や交通管理を行う交通技術者としての倫理
2. 道路交通流の特性
3. 道路交通流を解析するための理論
4. 単位時間当たりに処理できる人・車両数を表す道路の交通容量
5. 交通信号制御の基礎
6. 信号交差点の交通容量
7. 交通の意義及びトリップの定義、交通体系の計画と評価
8. 閉鎖な交通状態を導くための交通管理とITS
9. 交通調査の方法論
10. 交通密度予測(四段階推定法)の概要
11. 分布交通量モデル
12. 交通量配分モデル
13. 非集計交通行動モデル

●教科書

交通工学：河上、松井著(森北出版)

●参考書

●成績評価の方法

試験(75%)および演習レポート(25%)

科目区分
授業形態
専門科目
講義
沿岸海洋気象学 (2単位)
対象履修コース
社会資本工学
開講時期
3年前期
選択/必修
必修
教員
川崎 浩司 准教授

●本講座の目的およびねらい

沿岸海域における波の基本特性と各種の変形機構を講義する。加えて、波環境における技術者倫理についても言及する。

達成目標

1. 微小振幅波理論を理解し、波速、波長、伝播速度、水粒子速度、水粒子運動軌跡など波の基本特性諸量の計算ができる。
2. 波動エネルギーと群速度を理解し、エネルギー流束の保存則を使いこなせる。
3. 浅水変形、反射、回折、回折、砕波の現象を理解し、その計算ができる。
4. 不規則波の統計特性を理解し、説明ができる。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学

●授業内容

1. 沿岸海洋概説
2. 波の基礎方程式
3. 微小振幅波理論
4. 有限振幅波理論
5. 不規則波
6. 波の変形
7. 技術者倫理

●教科書

岩田好一朗他「役にたつ土木工学シリーズ1 沿岸環境工学」(朝倉書店)

●参考書

合田良美「海岸・港湾」(彰国社)、海洋工学用語集(土木学会)、必要に応じて、資料を配布する。

●成績評価の方法

レポート課題(10%)と期末試験(90%)より総合判断し、55点以上を合格。なお、無断欠席が1/3以上の場合、試験受験を認めない。
注意事項：授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。
質問への対応：来室、メールによる質問を歓迎。
連絡先：内線4632、kawasaki@civil.nagoya-u.ac.jp

科目区分 授業形態	専門科目 実験 水理学実験 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 必修
教員	川崎 浩可 准教授 戸田 祐嗣 准教授 井上 康 助教

●本講座の目的およびねらい

水の挙動とその記述を実験の現象を通して理解する。ねらい：
 ・水理学の4つの現象について、
 a. 理論的背景を説明できる。
 b. 理論と比較する為の実験方法・データ整理方法を組み立てることができる。
 c. 理論と実験との違いを考察できる。
 ・書式に従った分かりやすい報告書を作成できる。
 ・一連の目的・理論・実験方法
 ・結果提示・考察・結論をプレゼンテーションできる。また、そのために共同での準備作業ができる。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学、開水路水理学、水理学演習、沿岸現象力学

●授業内容

実験1 開水路の水面形と流速分布
 実験2 管路の水理と層流・乱流
 実験3 波の水理
 実験4 多孔体中の物質輸送

隔週で上記4つの実験を4班に分かれて実施し、それぞれの週週に結果・考察に関するディスカッションを行う。

●教科書

各実験毎に指示する。

●参考書

●成績評価の方法

レポート(65%)、グループ発表(10%)および試験(25%)
 注意事項：授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。
 質問への対応：来室、メールによる質問で対応。
 連絡先：川崎(内線4632, kawasaki@civ11.nagoya-u.ac.jp)、戸田(内線5176, ytda@cc.nagoya-u.ac.jp)

科目区分 授業形態	専門科目 実験 地盤材料実験 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 必修
教員	中野 正樹 教授 野田 利弘 教授 山田 美司 助教

●本講座の目的およびねらい

土の物理試験および力学試験を通して、土質力学の基礎を把握するとともに、実験機器の正しい使用方法、実験の観察から事実を抽出・整理・解釈する力を養うことを目的とする。また、実験結果発表会を通じて、発表、議論、まとめる力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、土質基礎工学、地盤工学

●授業内容

1. 土試料の採取法と工学的分類
2. 土の物理試験(密度、含水比、粒度、液性・塑性)
3. 土の締め固め試験
4. 透水・圧密試験
5. せん断試験(一面せん断、一軸圧縮、3軸圧縮試験)

●教科書

土の試験実習書：土質工学会編

●参考書

土質実験―その背景と役割―：依尾隆著

●成績評価の方法

実験への取り組みと実験後に提出するレポート
 実験結果発表会でのプレゼンテーション

科目区分 授業形態	専門科目 講義 極限強度学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	伊藤 啓人 教授 葛西 昭 講師

●本講座の目的およびねらい

座屈現象の理解を通じた構造物の安定、そして、構造物の地震時挙動を通じた動的特性の把握

●バックグラウンドとなる科目

構造力学、応用構造力学

●授業内容

1. 塑性解析
2. 座屈解析
3. 耐震解析

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義 鋼構造工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	館石 和雄 教授

●本講座の目的およびねらい

鋼を使った構造物の挙動、設計法、製作、架設、耐久性の評価、等について講述する。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学
構造力学

●授業内容

1. 構造用鋼材とその特性
2. 引張部材と継手の設計
3. 圧縮部材の設計
4. 曲げ部材の設計
5. 板の曲げと座屈
6. 鋼構造物の疲労設計

●教科書

適宜プリントを配布する。

●参考書

鋼構造学 伊藤学著 コロナ社
 鋼と鋼 深沢誠、大田孝二 建設図書

●成績評価の方法

期末試験の結果により判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	岩盤力学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	市川 康明 准教授

●本講座の目的およびねらい

岩石および岩盤の力学、ならびにそれに基づく岩盤構造物の設計の考え方を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

土質力学、土質力学演習

●授業内容

1. 岩盤力学と岩盤構造物の概況。(1回)
2. 岩石・岩盤の地質学的性質を講義する。(2回)
3. 室内岩石試験の概要と実習。(2回)
4. 岩盤力学の基礎(弾性体および弾塑性体の力学)について講義する。(5回)
5. 不連続性岩盤の力学について講義する。(1回)
6. 岩盤透過流の理論について講義する。(2回)
7. 有限要素法と岩盤構造物の設計について講義する。(2回)

●教科書

材料学会編：ロックメカニクス、森北出版

●参考書

●成績評価の方法

レポート(30%)、期末試験(70%)の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。授業への出席率80%以上を以て期末試験の受験資格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	環境地盤工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4年前期 選択
教員	片山 新太 教授 井村 秀文 教授 奥田 隆明 准教授

●本講座の目的およびねらい

化学物質による土壌・地下水汚染に関わるメカニズムとその予測・対策の学習を通じ、良好な地盤環境の創造と保全に必要な環境地盤工学の考え方を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

地盤工学、土地地質学、土壌化学、土壌微生物学

●授業内容

1. 地盤環境問題の概観
2. 環境地盤工学の基礎
 - 2-1 土壌の物理
 - 2-2 土壌の化学
 - 2-3 土壌の生物
 - 2-4 地盤環境における物質循環
3. 地盤環境の化学物質汚染とその修復技術
4. 地盤環境アセスメント
5. 地盤環境保全への法的取り組み
6. 技術者倫理

●教科書

●参考書

海野章ら「環境生物学」講談社 八橋敏雄「土壌の物理」東京大学出版会
久馬一剛ら「新土壌学」朝倉書店 金沢剛「農業の環境科学」合同出版
I.J.Tinsley著山 泉登訳「環境汚染の化学」産業図書
渋谷政夫編著「土壌汚染の機構と解析」産業図書

●成績評価の方法

小テスト、レポート、期末テストの総合判定

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	河川工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	辻本 哲郎 教授

●本講座の目的およびねらい

河川および流域管理・整備の理念とそれを実行する手法、枠組みを概説する。とくに、水理学、水文学その他の学術がどのように、技術・行政を支えられるかに重点をおいて講述する。

●バックグラウンドとなる科目

開水路水理学、流れの力学、流域水文学

●授業内容

1. 河川管理の新しい枠組み
2. 治水計画手法(基本高水、計画高水流量、整備計画)
3. 河道計画と河道設計手法
4. 水質計画
5. 河川計画の理解と河川環境管理(環境アセスメントとフォローアップ、水系土砂管理)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	海洋工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	水谷 法美 教授 非常勤講師(土木)

●本講座の目的およびねらい

海岸利用・保全、港湾の利用、沿岸防災のための海城施設・構造物の設計のための考え方、作用外力の発生機構と作用力の評価手法、等について講義し、下記の達成を目標とする。

- ・海岸地形の種類と形成過程を理解し、説明できる。
- ・波圧と波力の関係を理解し、説明できる。
- ・Morison式、Rudson式を理解し、使用できる。
- ・港湾・空港計画の概要を理解し、説明できる。
- ・技術者倫理について理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学、沿岸海岸力学、水理学実験

●授業内容

- ・日本の海岸地形と形成過程
- ・日本の港湾
- ・海岸・海洋構造物の種類と特徴
- ・構造物に作用する波圧と波力
- ・小口径構造物に作用する波力
- ・Morison式
- ・大口径 構造物に作用する波力
- ・構造物による波変形
- ・防波堤の波圧算定式
- ・抜根ブロックの耐波安定
- ・港湾計画
- ・空港計画
- ・海洋工学と技術者倫理

●教科書

●参考書

海岸環境工学：岩田好一朗・他(朝倉書店)

二訂版 海岸・港湾：合田 良実(彰国社)

●成績評価の方法

達成目標に関連する期末試験を実施し、その結果により総合判断し、55%以上を合格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	海城環境学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4年後期 選択
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩可 准教授 非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい

海城をとりまく様々な現象を理解し、海城の利用・開発のあるべき姿について講述する

達成目標

1. SCS法による風波の推算ができる。
2. 海浜域や潮砂渚の物理構造が理解でき、その計算ができる。
3. 漂砂機構と局所地形機構が理解でき、海岸侵食や汀線前進の概略予測ができる。
4. 沿岸海城の生態系が理解できる。
5. 富栄養化や負荷増大のメカニズムとその対策法が理解できる。
6. 環境影響評価 法とミディゲーションのあり方が理解できる。

●バックグラウンドとなる科目

沿岸海象力学, 海洋工学

●授業内容

1. 沿岸海城の物理・生物環境のあり方
2. 風波の推算
3. 漂砂と海浜変形
4. 沿岸海城の浸れ
5. 沿岸海城の生態系
6. 環境影響評価
7. 沿岸環境と生態系
8. 海城施設各論

●教科書

岩田好一朗他「役にたつ土木工学シリーズ1 海岸環境工学」(朝倉書店)

●参考書

合田良美「海岸・港湾」(朝倉社)。必要に応じて資料を配付する。

●成績評価の方法

レポート(30%)と期末試験(70%)より総合判断し、5.5点以上を合格。 注意事項: 授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。 質問への対応: 来室、メールによる質問で対応。 連絡先: 水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp), 川崎 (内線4632, kawasaki@civil.nagoya-u.ac.jp)

科目区分 授業形態	専門科目 講義及び演習
	コンクリート構造演習 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	國枝 健 准教授

●本講座の目的およびねらい

コンクリートの製造方法、硬化コンクリートおよび鉄筋プレストレストコンクリート(PC) 斜張橋の実績を対象として、計画から構造解析、設計へと至る一連の手順を具体的に講義し、各自がPC斜張橋の設計を行う。

●バックグラウンドとなる科目

コンクリート構造1, コンクリート構造2, 構造力学

●授業内容

1. PC斜張橋の施工事例と設計の流れ
2. 解析理論と有限要素法(はり要素)ならびにプログラム
3. 主げたの設計
4. 現場見学
5. 主方向の設計計算(ケーブルの設計, 主塔の設計)
6. 横方向の設計計算
7. 設計計算書の作成

●教科書

設計示方書の温度部分を簡潔にまとめたものと、設計の手順を説明したものをそれぞれテキストとして配布する。

●参考書

コンクリート構造(朝倉書店, 田辺忠顕他著)

●成績評価の方法

すべてのレポートを提出したものに、レポートの結果により判断し、55%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	応用水理学演習 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年後期 選択
教員	川崎 浩可 准教授 戸田 祐嗣 准教授 田代 尚 助教

●本講座の目的およびねらい

開水路水理学・海岸水理学について演習を行う

●バックグラウンドとなる科目

流れの力学、開水路水理学、水理学実験、水理学演習

●授業内容

1. 開水路水理
抵抗則、等流・限界流、水面形、2次元等流の流速分布
非定常流の基礎、移動床水理の基礎
2. 海岸水理
速度ポテンシャルと分位関係式
波達、水粒子速度、波圧
浅水変形、屈折、反射

●教科書

配付資料

●参考書

「開水路水理学」と「沿岸海象力学」での講義ノート等を持参

●成績評価の方法

レポート(40%)と筆記試験(60%) 注意事項: 授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。 質問への対応: 来室、メールによる質問で対応。 連絡先: 川崎 (内線4632, kawasaki@civil.nagoya-u.ac.jp), 戸田 (内線5176, ytd@awcc.nagoya-u.ac.jp)

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	技術英語1 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3年前期 必修
教員	非常勤講師(土木)

●本講座の目的およびねらい

技術英語の理解と表現の力を涵養することを目指す

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

土木工学関連の技術論文および研究発表に対する理解力、表現力をつける

●教科書

'Presenting Science' by T. Kiggell and K. Cleary (MacMillan Languagehouse, 2005; \2310)

●参考書

辞書

●成績評価の方法

出席10%, 課題への貢献度10%, 期末試験80%

科目区分 授業形態	専門科目 講義 技術英語 2 (1 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3 年後期 必修
教員	非常勤講師 (土木)

●本講座の目的およびねらい

技術英語の理解と表現の力を涵養することを目指す。
基本的には、本授業は技術英語 1 の継続科目である。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

土木工学関連の技術論文に対する理解力、表現力をつける

●教科書

教科書、プリント、ビデオ

●参考書

辞書

●成績評価の方法

出席、課題への貢献度、期末試験

科目区分 授業形態	専門科目 実験 構造数値実験 (1 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 3 年後期 必修
教員	山田 健太郎 教授 伊藤 義人 教授 館石 和雄 教授

●本講座の目的およびねらい

構造物の力学的な特性や挙動をよりよく理解するために、コンピュータを用いたシミュレーションと模型実験を行う。

●バックグラウンドとなる科目

形と力、応用構造力学

●授業内容

1. FEMを用いた構造物の応力解析
2. 構造物の振動解析
3. 構造物の地盤応答解析
4. 模型を使った構造実験
5. 相似則

●教科書

実験テーマごとに、プリントを配布する。

●参考書

なし。

●成績評価の方法

実験とレポートにより評価し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：十分に予習しておくとともに、実験に相応しい服装で臨むこと
質問への対応：実験中のみならず、随時受け付ける。
担当教員連絡先：内線 5918

科目区分 授業形態	専門科目 実験 材料学実験 (1 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2 年後期 必修
教員	中村 光 教授 園枝 稔 准教授 上田 尚史 助教

●本講座の目的およびねらい

コンクリートの製造方法、硬化コンクリートおよび鉄筋コンクリート構造に関する基礎を、視覚的・理論的に学ぶ。さらには、RC部材の実験を通じて、部材の破壊する形態を知ると共に、これまでの講義の復習として、部材の耐力力の算定手法など理論的な部分に関してもその知識を確固たるものにする。

●バックグラウンドとなる科目

コンクリート構造1、材料工学

●授業内容

1. 配合設計
2. セメント・骨材・細骨材の材料試験
3. 鉄筋の引張試験
4. コンクリートの圧縮、曲げ、引張強度試験
5. RCはりりの静的破壊実験
6. RCはりの補強コンテスト (設計、作製、プレゼンテーション)

●教科書

実験の内容を詳しく説明したテキストを配布する

●参考書

土木材料実験 (技報堂、図分編)

●成績評価の方法

実験を通じて知識を高めることを目的としていることから、原則として全ての実験に出席し、かつ全てのレポートの評価が55%以上の場合に単位を認める。

科目区分 授業形態	専門科目 講義 橋工学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4 年前期 選択
教員	山田 健太郎 教授

●本講座の目的およびねらい

社会基盤を構成する橋は、文明の発展に大いに寄与してきた。近世になって材料と構造解析の進歩に伴って長大スパンの斜張橋や吊橋も架けられるようになってきた。本講義では、橋の歴史から近代橋梁の設計、製作、架設、維持・管理までをカバーする。

●バックグラウンドとなる科目

構造力学
構造システム設計論

●授業内容

1. 橋梁の歴史
2. 橋梁形式と名前、構造部材の呼び方
3. 橋梁に作用する荷重
4. 橋梁の形式と設計
5. 橋梁の製作と架設
6. 橋梁の限界と耐久性

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験および演習レポート、橋を実際に見て、写真撮影をし、それをパワーポイントで発表する課題、で成績評価をする。

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	計算工学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4年前期 選択
教員	市川 康明 准教授

●本講座の目的およびねらい

数値計算の基礎となる数学と有限要素法の技法について概説する。

●バックグラウンドとなる科目

情報処理序院、構造力学、応用構造力学

●授業内容

1. 数値計算法概説
2. 線形ベクトル空間概説
3. Fourier級数とz変換
4. Fourier変換
5. 有限要素法の基礎
6. 場の問題の解析

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

レポート (30%)、期末試験 (70%) の結果により総合判断し、55%以上を合格とする。授業への出席率80%以上を以って期末試験の受験資格とする。

科目区分 授業形態	専門科目 実験・演習
	卒業研究A (2.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4年前期 必修
教員	各教員 (土木工学)

●本講座の目的およびねらい

教員とディスカッションしながら、あるテーマに対して研究を行う。テーマを理解し、スケジュールにしたがって研究を遂行し、成果を分かり易く論文にまとめ、成果を発表する一連のプロセスを通じて、未知の問題を、どのような方法で解決するかの演習を行う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

研究室に分かれて、教員とディスカッションしながら、卒業研究のテーマを決め、研究し、その成果を卒業論文にまとめ、研究の内容、研究の方法などは、指導教員の指導を受け、自分で資料収集、実験、解析、などを行って卒業研究を進める。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

研究課題に対する基礎力、応用力、説明力、応用力、創造力、総合力などをレポートやグループ討論を通じて総合的に合否を判定する。

科目区分 授業形態	専門科目 実験・演習
	卒業研究B (2.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 4年後期 必修
教員	各教員 (土木工学)

●本講座の目的およびねらい

教員とディスカッションしながら、あるテーマに対して研究を行う。テーマを理解し、スケジュールにしたがって研究を遂行し、成果を分かり易く論文にまとめ、成果を発表する一連のプロセスを通じて、未知の問題を、どのような方法で解決するかの演習を行う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

研究室に分かれて、教員とディスカッションしながら、卒業研究のテーマを決め、研究し、その成果を卒業論文にまとめ、研究の内容、研究の方法などは、指導教員の指導を受け、自分で資料収集、実験、解析、などを行って卒業研究を進める。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

研究課題に対する基礎力、応用力、説明力、応用力、創造力、総合力などをレポートやグループ討論とともに、卒業論文、発表会および質疑応答から総合的に合否を判定する。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義及び演習
	学術情報処理学及び演習 (2.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	社会資本工学 2年後期 選択
教員	伊藤 義人 教授 北川 徹哉 准教授

●本講座の目的およびねらい

コンピュータープログラムの流れを理解するとともに、問題を解くためのアルゴリズムの組み立てができるようになることを目標とする講義と演習を行う。演習を通じて、社会資本工学に関連する数学的・力学的な問題を数值的・情報処理的に解決し、結果を適切に説明する能力を習得する。

1. Fortranの文法の理解
2. Fortranにおける変数・配列
3. アルゴリズムの組立
4. 力学や数学に関する問題のコンピュータープログラムによる解決と結果の表現

●バックグラウンドとなる科目

情報処理序院

●授業内容

1. コンピュータプログラムの役割と重要性
2. エディタおよびコンパイラの概要、変数の型宣言、四則演算、ディスプレイへの出力、キーボードからの入力
3. ループや条件文を用いたアルゴリズムの組立て、組込関数の使用法
4. 配列の仕組・宣言・使用法、配列を活用したアルゴリズムの組立て
5. 中間総合演習
6. ファイルからの入力方法、ファイルへの出力方法、書式の指定方法
7. サブルーチンおよび関数のメリットと使用法、複素数の扱い方
8. 最終総合演習

●教科書

指定しない、ハンドアウト：毎回配布する。

●参考書

Fortran77入門 (培風館)

●成績評価の方法

毎回の演習のレポートと2回の総合演習のレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：特になし。
質問への対応：講義中・演習中に対応する。
担当教員連絡先：内線 5918

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	計測技術及び実習 (2.5 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	3年前期	3年前期
選択/必修	選択	選択
教員	齋藤 輝幸 准教授 山本 俊行 准教授 飛田 潤 准教授	

●本講座の目的およびねらい

土木・建築分野の技術者が設計、製造、利用、保全する段階で必要とされる種々の測定法の原理について講義し、そのいくつかについて実習する。以下を目標とする。1. 土木・建築分野の技術者が必要とする各種評価法や測定・測算法の原理を理解する。2. 計測機器を用い、温度、音、光、風、振動等の測定が出来る。3. 測定機器を用い、距離、角、水準、平板等の測定が出来る。4. 測定・測定結果に基づきレポートのまとめ方を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

物理環境工学、確率と統計、流れの力学、人間活動と環境

●授業内容

1. 計測技術とは(ガイダンス)
2. 温度の測定に関する講義と実習
3. 道路騒音の測定に関する講義と実習
4. 光環境の測定に関する講義と実習
5. 外界気象要素の測定に関する講義と実習
6. 風速の測定と流体の可視化に関する講義と実習
7. 振動の測定に関する講義と実習
8. 測定の種類と方法に関する概論講義
9. 測定の基本的な方法に関する講義と実習
10. 距離測定と角度測定に関する講義と実習
11. 水準測定に関する講義と実習
12. 平板測定に関する講義と実習
13. 最近の測定技術に関する講義

●教科書

●参考書

中村英夫著「測量学」(技報堂)、日本建築学会「環境工学実験用教材I/II」

●成績評価の方法

各課題に対するレポートを総合的に評価して55%以上を合格とする。なお、原則としてすべての課題の出席・レポート提出を必要とする。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	社会環境保全学 (2 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	
開講時期	3年前期	
選択/必修	選択	
教員	井村 秀文 教授 森 保宏 教授	

●本講座の目的およびねらい

大気汚染・水質汚濁・廃棄物・地球環境問題について社会環境保全の立場から講義する

●バックグラウンドとなる科目

衛生工学
環境システム工学
環境工学
確率と統計

●授業内容

1. 我国の環境問題の概観
2. 大気汚染
3. 水質汚濁
4. 廃棄物問題
5. 地球環境問題
6. 建築における省エネルギー
7. 新エネルギー
8. 未利用エネルギー
9. 環境リスク評価

●教科書

●参考書

土木学会環境システム委員会編「環境システム—その理念と基礎手法」、朝倉書店
中西早子他「演習 環境リスクを計算する」(岩波書店)

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 実習	
	社会資本工学実習 (1 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	
開講時期	3年前期	
選択/必修	選択	
教員	各教員(土木工学)	

●本講座の目的およびねらい

実務現場(計画・調査・設計・建設・維持・管理)での実習体験を通じて、実社会で役に立つ土木技術者(シビル・エンジニア)に求められる資質を身につけ、どのような業種が実社会で必要とされ、大学で学んだことがどのように企業や官庁などで生かされるのかを理解することを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目

工学倫理、確率と統計、その他専門系科目

●授業内容

実務現場における体験学習

●教科書

特になし

●参考書

特になし

●成績評価の方法

評価は「合・否」で行い、以下の要件を満たしたものを「合」、そうでないものを「否」とする。(1)原則として10日間または64時間以上の実習をうけること。(2)「実習評価書」の評価は「可」以上。(3)レポートを提出し発表会での発表を行うこと

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	衛生工学 (2 単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	3年前期	3年後期
選択/必修	選択	選択
教員	片山 新太 教授 井村 秀文 教授 奥田 隆明 准教授	

●本講座の目的およびねらい

上下水道、廃棄物処理における、処理計画・送配水・処理法、および環境アセスメントについて講述する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 環境・衛生工学概論
2. 環境調査とアセスメント
3. 上下水道(計画・送配水・処理)
4. 下水処理(計画・集排水・処理)
5. 排水問題
6. 廃棄物処理(計画・施設)
7. 汚泥処理

●教科書

●参考書

衛生工学：川島哲・権原紀・西川泰治編(森北出版)

●成績評価の方法

レポートおよび筆記試験

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	土木史 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学
開講時期	3年後期
選択/必修	選択
教員	馬場 俊介 講師 佐々木 葉 講師

●本講座の目的およびねらい

土木工学(土木専業)の考え方を歴史を通して学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史。

●授業内容

1. 治水と港湾の歴史
2. 上下水道の歴史
3. 道路と鉄道の歴史
4. 橋の歴史
5. 都市計画の歴史
6. 歴史的土木構造物の保存と活用

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	空間設計論 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学
開講時期	4年前期
選択/必修	選択
教員	小松 尚 准教授

●本講座の目的およびねらい

下記の観点から、建築・都市空間を計画・デザインしていくために必要となる専門知識・技術を習得するとともに、生活や周辺環境に対して建築・都市空間が与える影響について理解を深める。

- ・建築の主体構造、各部構法の物理的な成り立ち
- ・人間生活

●バックグラウンドとなる科目

図学、人間活動と環境

●授業内容

- 第1週 建築の構法や材料に関する概説
- 第2週 主体構造の構法1：木造
- 第3週 主体構造の構法2：鉄骨造
- 第4週 主体構造の構法3：鉄筋コンクリート造
- 第5～7週 各部構法
- 第8週 設計プロセスと構法
- 第9週 テスト
- 第10週 建築に関わる寸法1：人体寸法・動作寸法
- 第11週 建築に関わる寸法2：視覚と心理領域
- 第12週 建築の単位空間
- 第13週 日常生活と建築・都市空間の関わり
- 第14週 建築・都市空間の社会性・公共性
- 第15週 建築・都市空間の文化性

●教科書

コンパクト設計資料集成：日本建築学会編（丸善）
建築構法：内田祥成監修（市ヶ谷出版社）

●参考書

●成績評価の方法

第1から8週まで、第9から15週までの内容でそれぞれ試験（各50%）を行い、その結果から成績を算出する。55%以上が合格である。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	都市・国土計画 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学
開講時期	3年後期
選択/必修	選択
教員	村山 昭人 准教授

●本講座の目的およびねらい

本授業の目的は、1) 都市・国土計画を環境・社会・経済・生活の質に深く関わる重要な分野として認識すること、2) 都市・国土計画の歴史を学ぶこと、3) 現在の都市・国土計画の体系を空間レベルから理解することである。また、本授業の達成目標は、多様な国内外諸都市の現状と課題、取り組み、そして、現在の都市・国土計画の体系を包括的に説明することができるようになることである。

●バックグラウンドとなる科目

都市と文明の歴史、都市と環境、空間計画論、空間設計論、建築学特別講義、土木史

●授業内容

1. 身近な都市圏の現状と課題、最近の取り組み
2. 多様な国内外諸都市の現状と課題、最新の取り組み（先進国・発展途上国）
3. 様々な都市計画思潮と近代都市計画の成立、現代都市計画へ
4. 日本の「まちづくり」
5. 近年の都市計画・国土計画：国土レベル、都市圏レベル、自治体レベル、地域レベル、地区レベル
6. 日本の都市・国土計画の特徴・課題・展望

●教科書

講義時間内に資料を配布する

●参考書

都市計画国際用語辞典（丸善）、まちづくりキーワード事典（学芸出版社）、世界のSS D100：都市持続再生のツボ（彰国社）

●成績評価の方法

毎講義の小レポート：20%、中間レポート：40%、期末レポート40%
質問への対応
・時間外の質問は教員室で受け付ける。事前ご連絡をすること。
・内線：3750 E-mail: curayasa@ccrot.nuac.nagoya-u.ac.jp

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	土地地質学 (2単位)
対象履修コース	社会資本工学
開講時期	4年前期
選択/必修	選択
教員	中野 正樹 教授 非常勤講師（土木）

●本講座の目的およびねらい

地盤や岩盤の地質構造や力学特性に関する基礎知識、地下構造探査法、地形・地質図、岩盤等級等について学び、土木構造物の計画・設計・施工・保守管理について理解を深める。1. 地盤や岩盤の地質構造、力学特性を理解し、その概要を説明できる。2. 地盤・岩盤の基礎知識に基づき、土木構造物の計画、設計、施工、保守の向上に寄与できる。3. 土地地質調査法の概要を理解し、その適用性について考察できる。4. 各種地下探査法の原理を理解し、適用性を評価できる。

●バックグラウンドとなる科目

力学

●授業内容

1. 概説
2. 鉱物・岩石・岩盤/地質構造
3. 風化・変質劣化
4. 土地地質調査法
5. 断層とその活動性
6. 斜面の安定
7. まとめ

●教科書

特に無し

●参考書

●成績評価の方法

期末テストの結果により判断し、55%以上を合格とする

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	地震・風工学 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	
開講時期	4年前期	
選択/必修	選択	
教員	北川 徹哉 准教授	

●本講座の目的およびねらい

世界および日本における地震の発生状況、地震と断層の関係、地震の発生メカニズム、地震波とその減衰、増幅、地震入力および耐震設計法の基本概念を理解する。1. 世界および日本の地震発生状況、プレートテクトニクスに関する基礎知識を説明できる。2. 地震発生メカニズム、地震波動を通じて、地震被害現象を解釈できる。3. 耐震設計の必要性、設計入力、設計法の概要を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

力学

●授業内容

1. プレートテクトニクス
2. 世界および日本の地震発生状況
3. 地震のエネルギー、マグニチュード、震度
4. 地震発生メカニズム
5. 活断層と地震
6. 地震波動
7. 地震波の減衰、増幅
8. 地震被害とその特徴
9. 地震と地震動の予測
10. 我が国の地震防災研究体制
11. 耐震設計 (概要)
12. 耐震設計 (設計入力)
13. 耐震設計 (震度法)
14. 耐震設計 (動的解析)
15. まとめ

●教科書

特になし

●参考書

エネルギー技術者のための地震・耐震学 丸野

●成績評価の方法

期末テストの結果により判断し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：特になし
質問への対応：講義中あるいは終了時に対応する。
担当教員連絡先：内線 5918

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	世界の建設プロジェクト (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	2年前期	4年前期
選択/必修	選択	選択
教員	林 良嗣 教授 森川 高行 教授 中村 英樹 教授	

●本講座の目的およびねらい

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	経営工学 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	4年後期	4年後期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師 (教務)	

●本講座の目的およびねらい

製造業を中心とする企業経営において、その成長・発展に不可欠な技術革新のマネジメントを学ぶ。経営学、組織論、経済学、技術史などの多様な観点から解説する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 技術革新の連続性～コネクションズ～
2. 技術革新における飛躍～セレンディピティ～
3. 革新的組織と場のマネジメント
4. 技術革新の背景～パラダイムシフト～
5. 技術革新のダイナミズム～アーキテクチャ～
6. 技術革新能力の変化～コンカレント・ラーニング～

●教科書

●参考書

講義中、必要に応じて紹介する。

●成績評価の方法

毎回の講義終了前にその日の講義内容を振り返るために小テストを行い、最終的にレポートを提出してもらい、平常点50%、レポート点50%で評価を行う。なお、1/3以上の欠席がある場合には、レポートの提出を認めない。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第1 (0.5単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師 (教務)	

●本講座の目的およびねらい

社会の中核で活躍する名古屋大学の先輩が広く深い体験を踏まえて、学生に夢を与え、工学部出身者に必須の対人的、かつ内面的な人間力を涵養し、その後の勉学の指針を与える。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

「がんばれ後輩」として、社会の中核で活躍する先輩が授業を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

講師の授業内容に関連して、簡単な課題のレポート提出により評価する。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第2 (1単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	4年前期	4年前期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師(教務)	

●本講座の目的およびねらい

地球温暖化が人間活動による化石燃料消費の結果生じたことは世界的に認知されている。温暖化を抑制することは人類の喫緊の課題である。本講義では日本のエネルギー供給の概要を把握するとともに、地球温暖化問題やその対応策など現代社会がおかれた問題状況について解説する。それを踏まえ、省エネルギーを実現する上で考えるべきエネルギーシステム、エネルギー変換技術、エネルギー政策について理解することを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 日本のエネルギー供給の現状
2. 暮らしとエネルギー
3. 新エネルギーの現状と課題
4. 地球温暖化問題と対策
5. ヒートカスケーディングと応用技術

※講義中に新エネルギー等に関するアンケート調査を実施する。その集計結果を全国調査の結果と比較する予定。

●教科書

特になし

●参考書

特になし(参考資料を配布する)

●成績評価の方法

講義期間中に2回レポートを提出する。レポートの内容によって評価する。
履修上の注意: 集中講義2日間の両方ともに出席する必要がある。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第3 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	4年後期	4年後期
選択/必修	選択	選択
教員	葛西 昭 講師 劉 軍 講師 笹井 亮 講師	

●本講座の目的およびねらい

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史および先端技術を把握する。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史や先端技術について、ビデオや先端企業の見学を通して紹介する。日本が世界において科学的および技術的に果たす役割について討論し、理解を深める。

●教科書

なし

●参考書

なし

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学概論第4 (3単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	選択	選択
教員	石田 幸男 教授 非常勤講師(教務)	

●本講座の目的およびねらい

この授業は、日本語を勉強したことのない学生、あるいは少ししか学習したことのない学生を対象とする。日本での日常生活を送るために基本的なレベルの日本語の能力を養成することを目的とする。とくに、日本での日常生活を送るために必要な初歩的な文法、表現を学び、会話力を中心とした日本語の能力を養成する。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

1. 日本語の発音
2. 日本語の文の構造
3. 基本語彙・表現
4. 会話練習
5. 聴解練習

●教科書

Japanese for Busy People I (第3版) 国際日本語普及協会 講談社インターナショナル (2006)

●参考書

●成績評価の方法

毎回講義における質疑応答と演習50% 会話試験50%
で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。
履修条件・注意事項等: 特になし 質問への対応: 講義終了時に対応する。
担当教員連絡先: 内線 2790 ishida@muen.nagoya-u.ac.jp

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義	
	工学倫理 (2単位)	
対象履修コース	社会資本工学	建築学
開講時期	1年前期	1年前期
選択/必修	選択	選択
教員	非常勤講師(教務)	

●本講座の目的およびねらい

技術は社会や自然に対して様々な影響を及ぼし種々の効果を与えています。それらに関する理解力や責任など、技術者の社会に対する責任について考え、自覚する能力を身につけることをめざします。

●バックグラウンドとなる科目

全学教養科目(科学・技術の倫理、科学技術史、科学技術社会論)
文系教養科目(科学・技術の哲学)

●授業内容

1. 工学倫理の基礎知識
2. 工学の実践に関わる倫理的な問題

●教科書

瓜田光太郎、戸田山和久、伊勢田哲治編『誇り高い技術者になるうー工学倫理ノススメ』(名古屋大学出版会)

●参考書

c.ウィットベック(札幌順、飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房)、斎藤了文・坂下浩可編、『はじめての工学倫理』(昭和堂)、c.ハリス他著(日本技術士会訳)『科学技術者の倫理-その考え方と事例-』(丸善)、米田科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすみたちへ』(化学同人)

●成績評価の方法

レポート

科目区分
授業形態
関連専門科目
講義
産業と経済 (2単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
社会資本工学
4年後期
選択
建築学
4年後期
選択
教員
非常勤講師(教務)

●本講座の目的およびねらい

具体的な経済問題について検討しつづ、
一般社会人として必要な経済の知識を習得し、
同時に経済学的な思考を学ぶ。

達成目標

1. 一般社会人として必要な経済知識の習得
2. 経済学的な思考の理解・習得

●バックグラウンドとなる科目

社会科学全般

●授業内容

1. 経済の循環・・・国民所得決定のメカニズム
2. 景気の変動・・・技術革新と太陽風点説
3. 国際貿易と外国為替・・・世界経済のグローバル化
4. 政府の役割・・・日本の将来と望ましい財政
5. 日銀の役割・・・生活と物価の安定
6. 人口問題・・・過剰人口と過少人口
7. 経済学の歴史・・・自立と相互依存の認識
8. 試験

●教科書

中矢俊博「入門書を読む前の経済学入門」(同文館)

●参考書

P. A. サムエルソン, W. D. ノードハウス『経済学』(岩波書店)
宮沢健一(編)『産業連関分析入門』<新版>(日経文庫, 日本経済新聞社)

●成績評価の方法

出席確認のレポートと試験で総合的に評価する。

質問については、講義終了後に教室で受け付ける。

科目区分
授業形態
関連専門科目
講義
特許及び知的財産 (1単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
社会資本工学
4年後期
選択
建築学
4年後期
選択
教員
笠原 久美雄 教授

●本講座の目的およびねらい

特許を中心とする知的財産を保護する制度について基本的な知識を習得するとともに、
大学や企業で役に立つ「知的財産マインド」を修得する。

【達成目標】

1. 特許法の概要を理解し、特許動向を把握できる。
2. 特許出願書類の書き方を理解し、演習テーマについて特許出願書類を書くことができる。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

1. 歴史から学ぶ特許の本質1 (特許制度の歴史)
2. 歴史から学ぶ特許の本質2 (日本特許保存)
3. 歴史から学ぶ特許の本質3 (プロパテント時代の潮流)
4. 日本における特許制度 (制度の概要, 特許の基礎知識, 特許の利用)
5. 特許出願の実務1 (特許情報の調査, 特許出願書類の書き方)
6. 特許出願の実務2 (特許出願書類の作成演習)
7. 本学における特許マネジメント及び知的財産に関する課題と展望

●教科書

1. 産業財産権標準テキスト-特許編- (発明協会) (配布)
2. 書いてみよう特許明白書書いてみよう特許出願 (発明協会) (配布)

●参考書

特になし

●成績評価の方法

毎回講義終了時に出席するレポート70%、演習テーマについて作成する特許出願書類
30%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

質問への対応: 原則、講義終了時に対応する。

担当教員連絡先: 内線3924 kasaharaseangaku.nagoya-u.ac.jp

科目区分
授業形態
関連専門科目
講義
社会環境工学概論 (2単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
社会資本工学
後期
選択
建築学
後期
選択
教員
辻本 哲郎 教授
西澤 泰彦 准教授
飛田 潤 准教授

●本講座の目的およびねらい

土木工学や建築学が社会環境の向上に果たす役割を理解する

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

前半では建設現場への視察等を通して社会基盤整備プロジェクトにおける土木工学の基礎理論と建設技術を紹介し、後半では日本の建築や都市のデザインや技術を視察等をおして多面的・包括的に紹介する。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分
授業形態
関連専門科目
講義
職業指導 (2単位)

対象履修コース
開講時期
選択/必修
社会資本工学
4年後期
選択
建築学
4年後期
選択
教員
非常勤講師(教務)

●本講座の目的およびねらい

社会構造・産業構造に関する基礎的な知識、並びに、職業選択に関する能動的な意志活動や態度及び論理・職業観などを習得し、自己実現に必要なエンプロイアビリティ(就業能力)を身に付ける。

達成目標

- 1 工業の役割、貢献度等を理解する。
- 2 研究開発と製造業との連携を習得する。
- 3 職業選択と教育心理学との関係を知得する。
- 4 職業選択の方法と技術を身に付ける。
- 5 自己実現の対応策を考察する。

●バックグラウンドとなる科目

現代社会、政治・経済、教育・発達心理学など

●授業内容

- 1 職業指導の歴史の経緯
- 2 産業構造と職業構成
- 3 産業と教育
- 4 職業選択の諸理論
- 5 発達心理学と職業
- 6 大学生のキャリア発達と職業指導
- 7 職業に關する関連法規
- 8 職業適性検査の理論と分析
- 9 職業選択の課題と展望
- 10 まとめ

●教科書

特に指定しない(資料は毎週適宜配布)

●参考書

『厚生労働白書』R18年度版(厚生労働省)
『キャリア形成・就職メカニズムの国際比較』寺田登紀著(晃洋書房)
『職業と人間形成の社会学』伊藤一雄著(法律文化社)
『就職の余本』(就職総合研究所)
『現代用語の基礎知識』2007・2008(自由国民社)など

●成績評価の方法

期末試験、課題レポート、出席状況